

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「テンプレトン・グローバル株式ファンド（愛称：株の祭典）」は2019年11月28日に第13期の決算を行いました。当ファンドは、主として世界各国の株式を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行い、投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

テンプレトン・ グローバル株式ファンド (愛称:株の祭典)

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第13期(決算日2019年11月28日)

作成対象期間：2018年11月29日～2019年11月28日

第13期末(2019年11月28日)	
基準価額	10,014円
純資産総額	702百万円
第13期	
騰落率	△ 1.8%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。



FRANKLIN
TEMPLETON

フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社

東京都港区六本木1丁目9番10号

<お問い合わせ先>

お客様ダイヤル

電話番号：03-6230-5699

受付時間：9:00～17:00

(土・日・祝日および12月31日・1月2日・1月3日を除きます。)

ホームページ：<https://www.franklintempleton.co.jp/>

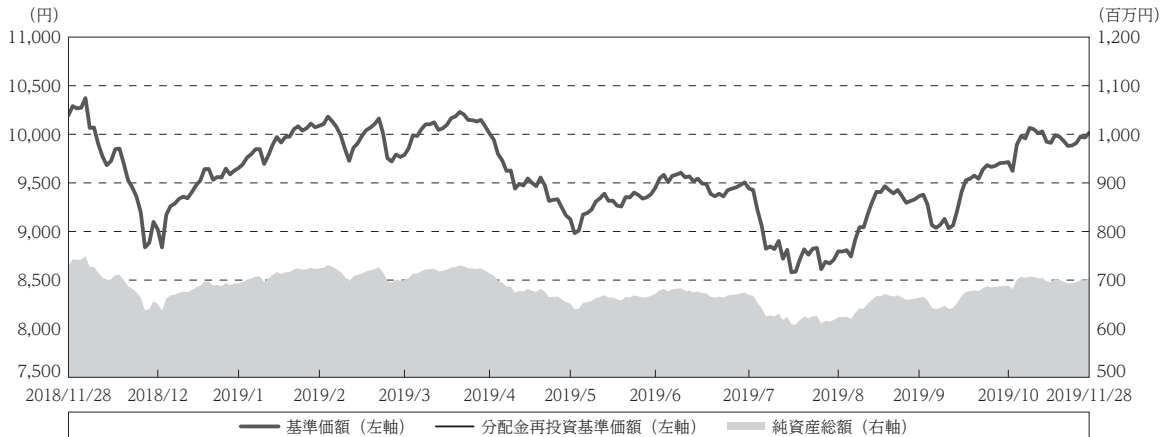
お客様の口座内容などに関するお問い合わせは、お申込みされた販売会社までお願い申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。上記<お問い合わせ先>ホームページの「ファンド一覧」から当ファンドのファンド名称を選択することにより、当ファンドの詳細ページにおいて「資料・レポート」の中から運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付を請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2018年11月29日～2019年11月28日)



期首：10,198円

期末：10,014円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 1.8% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首(2018年11月28日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定していません。

○基準価額の主な変動要因

当期の当ファンドの基準価額(円建て)の値下がり、投資対象ファンドの基準価額(米ドル建て)は値上がりしたものの、米ドルが円に対して下落したことによるものです。

なお、投資対象ファンドの主な変動要因は以下の通りです。

(上昇要因)

- ・地域別では、保有する一部の欧州、北米の企業の株価が上昇したこと
- ・セクター別では、保有する一部の金融、素材、ヘルスケア関連企業の株価が上昇したこと

(下落要因)

- ・外国為替市場で米ドルが円に対して下落したこと
- ・地域別では、保有する一部のアジア、中東の企業の株価が下落したこと
- ・セクター別では、保有する一部のエネルギーやコミュニケーション・サービス関連企業の株価が下落したこと

1 万口当たりの費用明細

(2018年11月29日～2019年11月28日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	121	1.265	(a) 信託報酬 = [期中の平均基準価額] × 信託報酬率
(投 信 会 社)	(27)	(0.286)	ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価
(販 売 会 社)	(89)	(0.935)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受 託 会 社)	(4)	(0.044)	ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.014	(b) その他費用 = $\frac{\text{[期中のその他費用]}}{\text{[期中の平均受益権口数]}}$
(保 管 費 用)	(1)	(0.006)	その他費用
(監 査 費 用)	(1)	(0.008)	・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(そ の 他)	(0)	(0.001)	・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・その他は、金銭信託預入に係る手数料等
合 計	122	1.279	
期中の平均基準価額は、9,559円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

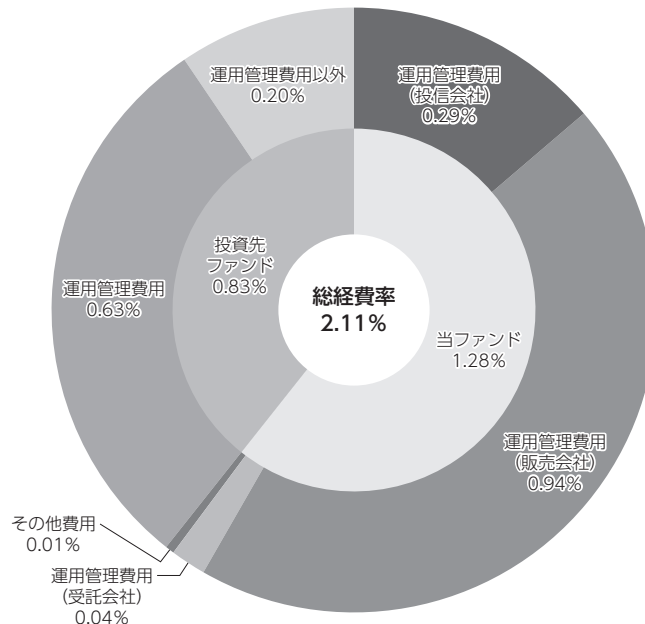
当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.11%です。



(単位:%)

総経費率(①+②+③)	2.11
①当ファンドの費用の比率	1.28
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.63
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.20

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2014年11月28日～2019年11月28日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2014年11月28日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2014年11月28日 決算日	2015年11月30日 決算日	2016年11月28日 決算日	2017年11月28日 決算日	2018年11月28日 決算日	2019年11月28日 決算日
基準価額 (円)	10,559	10,195	9,381	10,647	10,198	10,014
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	170	190	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 3.4	△ 8.0	15.3	△ 2.4	△ 1.8
純資産総額 (百万円)	2,384	1,543	1,248	896	729	702

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドは、「テンプレートン・グロース・ファンド Advisor Class」、「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズ-テンプレートン・グロース (ユーロ)・ファンド Class I (Ydis) USD」および「テンプレートン・グロース・ファンドII」に投資するファンド・オブ・ファンズです。ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境

(2018年11月29日～2019年11月28日)

(世界の株式市場)

当期の世界の株式市場は、期首から2018年12月下旬にかけては、米連邦準備理事会（FRB）による利上げに加え、米政府機関の一部閉鎖、英国の欧州連合（EU）離脱（ブレグジット）を巡る混迷、フランスの抗議デモやイタリアの長引く予算案交渉といった政情不安なども嫌気され、大きく下落しました。

しかし2019年1月以降、米国を中心に経済指標に改善が見られたこと、米中貿易摩擦に関して両国間の通商協議の進展期待が高まったこと、FRBの金融政策が一転してハト派色を強めたことなどが好感され、世界の株式市場は上昇しました。

その後5月から8月にかけては、米中間の貿易摩擦問題、世界経済成長の鈍化懸念や香港の民主化運動などを背景に株式市場が下落する局面もありましたが、FRBが7月以降3度に及ぶ利下げを実施したことに加え、欧州中央銀行（ECB）も9月に3年半ぶりとなる利下げを実施した上、2018年末で終了していた量的緩和政策の再開を発表するなど、主要国中央銀行による景気刺激策が好感され、9月以降の株式市場は上昇基調となりました。米中間の貿易問題にも進展が見られたことや、ブレグジットの3ヵ月の延期なども押し上げ材料となり、株式市場は結局期首から上昇して当期を終えました。

(外国為替市場)

当期の外国為替市場では、期首から2019年1月初旬にかけては、世界的な株安、世界経済の減速懸念、米政府機関の一部閉鎖など米国の政治リスクなどを受けて、リスク回避的な円買い・ドル売りが優勢となり、ドル円相場は期首の1米ドル113円台から107円台まで円高ドル安が進みました。

その後、米中貿易摩擦に関して両国間の通商協議の進展期待に加え、株式市場の持ち直し、世界経済の悪化懸念の後退などを背景にドル買いが優勢な展開となり、4月中旬にかけては1米ドル112円台まで円安ドル高が進みました。

しかし、その後米国長期金利が大幅に低下したこと等を背景に米ドルは反落し、7月にはFRBが約10年ぶりとなる利下げを実施する中、米ドル安円高基調が強まりました。政情面でも、米中間の通商交渉を巡る不透明感が継続したことに加え、香港における反政府デモの激化やブレグジットを巡る不透明感といった材料を受け、投資家のセンチメントが悪化し、リスク回避的な円買い・ドル売りが優勢となりました。8月には1米ドル105円台まで円高ドル安が進みました。

その後、期末にかけては、米中貿易交渉の進展期待や堅調な米国経済指標の発表などを受けてドルが買い戻される展開となりましたが、期を通じては米ドルの対円相場は下落し、期首を下回る1米ドル109円台で当期を終えました。

当ファンドのポートフォリオ

(2018年11月29日～2019年11月28日)

(当ファンド)

期を通じて投資対象ファンドの組入比率を高位に維持し、当期末は98.6%となりました。

投資対象ファンドである「テンプレートン・グロース・ファンド（米国籍投資法人）」、「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グロース（ユーロ）・ファンド（ルクセンブルク籍投資法人）」および「テンプレートン・グロース・ファンドⅡ（ケイマン籍投資法人）」に投資を行いました。当期末の各ファンドの組入比率は、米国籍が11.0%、ルクセンブルク籍が11.2%、ケイマン籍が76.4%となりました。

(投資対象ファンド)

当期、各主要国中央銀行による協調的な金融緩和政策などを受けて世界の株式市場が上昇する中、ファンドの基準価額（米ドル建て）は値上がりしました。

当期のファンドの組入れ状況をMSCI World インデックス*と比較すると、業種ではヘルスケア、金融、エネルギーなどの組入比率が高くなった一方で、情報技術、一般消費財・サービス、資本財・サービスなどの組入比率が低くなりました。また、地域配分では、欧州株式の組入比率が高く、米国株式の組入比率が低くなりました。

当期のファンドの基準価額（米ドル建て）の値上がりは、業種では主に金融、素材、ヘルスケアなどの個別銘柄がプラスに寄与し、地域別では主に欧州、北米の個別銘柄がプラスに寄与しました。

* MSCI Worldインデックスは、MSCIが開発した時価総額株価指数です。同指数の著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。また、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2018年11月29日～2019年11月28日)

当ファンドの投資対象ファンドは、ベンチマークを上回ることを目指して運用をするものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定していません。

分配金

(2018年11月29日～2019年11月28日)

当期の収益分配は、基準価額の水準、市況動向等を勘案し、見送ることとしました。分配に充てなかった収益につきましては、投資信託財産中に留保し、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第13期
	2018年11月29日～ 2019年11月28日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,095

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

○市場見通し

当期もグロース株がバリューストックをアウトパフォームしましたが、足元では徐々に当ファンドおよびバリューストックにとって後押しとなる兆候が見られ始めています。ファンドでは、より確信度の高い銘柄の組入を高める一方、確信度が低下した銘柄を売却してまいりましたが、結果としてそれらの売買がパフォーマンスの改善に結び付きました。ポートフォリオの構成は、逆張りのバリューストック戦略に基づき、質が高くよりディフェンシブな銘柄のうち、著しく割安となっており、サイクル的にも今後上昇が見込まれるものを中心としています。

また、9月の初旬には市場で大幅なスタイルの転換が見られました。これまで買われてきたグロース株および債券代替とされるセクターの銘柄が大きく売られた「シックスシグマ・イベント」と呼ばれるこの事象は、ある特定の銘柄群に人気が集まりバリュエーション面で極端に割高となった場合には、サイクルの終盤にその反転調整も急速に促されることを示唆しています。

こうした環境下で、長期的視点を有するバリューストック運用の中でも、当ファンドのようにサイクル的およびディフェンシブの両面でバランスを保っているポートフォリオが、適切にリスクをコントロールしながら潜在的な投資機会を捉えることができると考えます。このような理由から、現在のポートフォリオは内的要因(銘柄選択およびポートフォリオ構築手法を強化)および外的要因(サイクル的な投資環境)の両面から状況が改善傾向にあると考えます。

○運用方針

(当ファンド)

当ファンドは、運用の基本方針に基づき、投資対象ファンドである「テンプレトン・グロース・ファンド（米国籍投資法人）」、「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グロース（ユーロ）・ファンド（ルクセンブルク籍投資法人）」および「テンプレトン・グロース・ファンドⅡ（ケイマン籍投資法人）」へ投資を行ってまいります。

(投資対象ファンド)

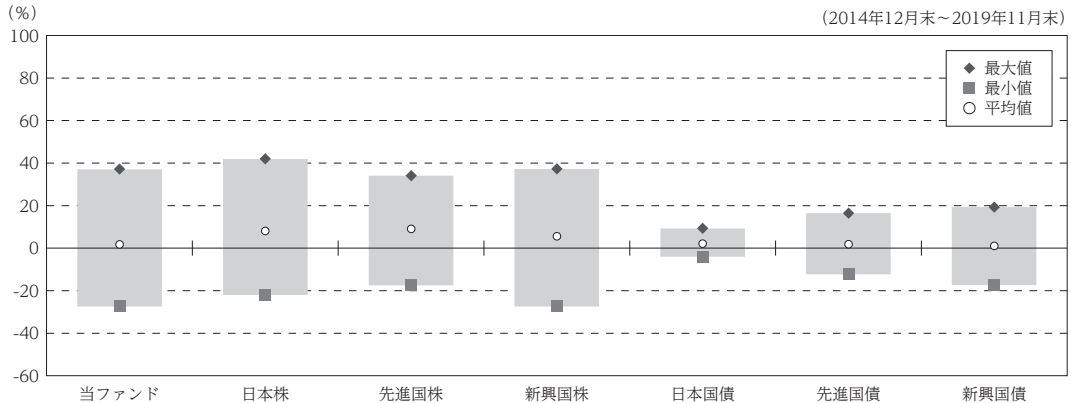
長期投資の観点では、ファンダメンタルズ重視の投資家にとっては魅力的な株式への投資機会がもたらされていると考えており、企業価値が株価に十分織り込まれていないと思われる銘柄に注目しています。今後も、あらかじめ特定の業種・国・地域等への投資配分を定めず、株価がテンプレトンの投資理念に基づいて評価した企業価値を下回り割安な水準にあると判断できる銘柄を、長期投資の観点とボトム・アップアプローチにより発掘し投資してまいります。

引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	無期限	
運用方針	主として、世界各国の株式を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行い、投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	<ul style="list-style-type: none"> ・テンプレートン・グロース・ファンド（米国籍投資法人） ・フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グロース（ユーロ）・ファンド（ルクセンブルク籍投資法人） ・テンプレートン・グロース・ファンドⅡ（ケイマン籍投資法人）
	テンプレートン・グロース・ファンド	世界各国（新興国を含む）の株式
	フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グロース（ユーロ）ファンド	
	テンプレートン・グロース・ファンドⅡ	
運用方法	<p>テンプレートン・グロース・ファンド、フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グロース（ユーロ）ファンド、テンプレートン・グロース・ファンドⅡの3つの外貨建て投資信託証券（投資対象ファンド）を通じて、主として世界各国の株式に投資を行い、投資信託財産の長期的な成長を目指します。当ファンドの外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行わないこととします。</p>	
分配方針	<p>毎決算時（毎年11月28日、休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>②分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p> <p>③留保益の運用については特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p>	

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	1.7	8.1	9.0	5.5	2.1	1.8	1.0
最大値	37.1	41.9	34.1	37.2	9.3	16.4	19.3
最小値	-27.4	-22.0	-17.5	-27.4	-4.0	-12.3	-17.4

2014年12月～2019年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。

なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース) は、委託会社で円換算しています。

代表的な資産クラスの指数の著作権等についてはこの運用報告書の最後に記載してありますので、ご参照ください。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2019年11月28日現在)

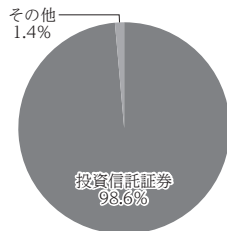
○組入上位ファンド

銘柄名	第13期末
	%
テンプレートン・グロース・ファンドⅡ	76.4
フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズ-テンプレートン・グロース(ユーロ)・ファンド	11.2
テンプレートン・グロース・ファンド	11.0
組入銘柄数	3銘柄

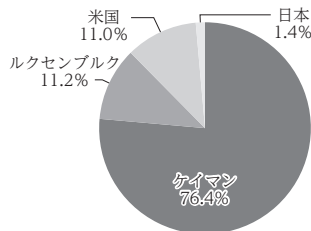
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

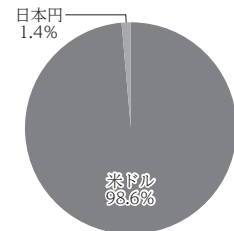
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

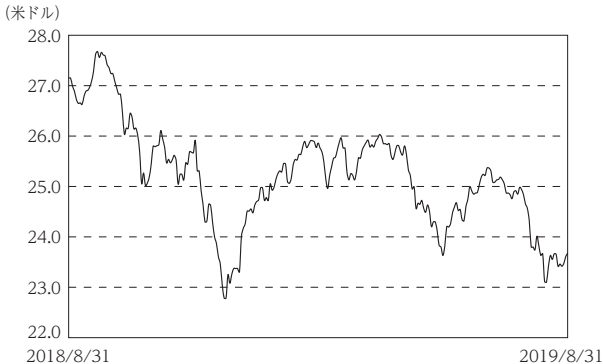
項目	第13期末
	2019年11月28日
純資産総額	702,621,009円
受益権総口数	701,628,364口
1万口当たり基準価額	10,014円

(注) 期中における追加設定元本額は28,032,728円、同解約元本額は41,594,060円です。

組入上位ファンドの概要

テンプレートン・グロース・ファンド (2018年9月1日～2019年8月31日)

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とする Advisor Class の分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2018年9月1日～2019年8月31日)

管理報酬	0.69%
名義書換事務代行報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.12%
合計	0.81%

(注) 当ファンドが投資対象とする Advisor Class の数値です。

(注) 1万円当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

○上位 10 銘柄

(2019年8月31日現在)

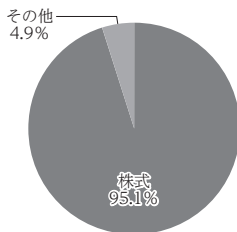
銘柄名	国名	業種	比率 %
Kellogg Co.	米国	食品・飲料・タバコ	3.07
Allergan PLC	米国	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.77
Gilead Sciences Inc.	米国	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.48
Roche Holding AG	スイス	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.39
Singapore Telecommunications Ltd.	シンガポール	電気通信サービス	2.30
Walgreens Boots Alliance Inc.	米国	食品・生活必需品小売り	2.29
BNP Paribas SA	フランス	銀行	2.25
Samsung Electronics Co. Ltd.	韓国	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.22
Bayer AG	ドイツ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.19
SES SA, IDR	ルクセンブルク	メディア・娯楽	2.18
組入銘柄数		77銘柄	

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

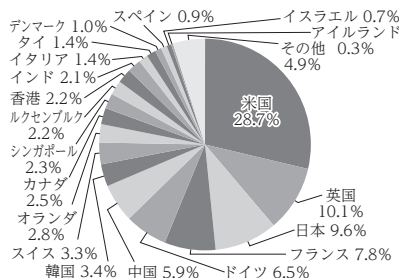
(注) 業種分類は、スタンダード&プアーズとMSCIが共同で開発した「世界産業分類基準 (GICS)」の24の産業グループを使用しております。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載しております。

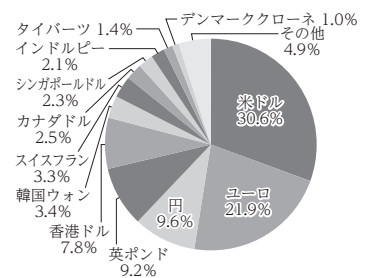
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分

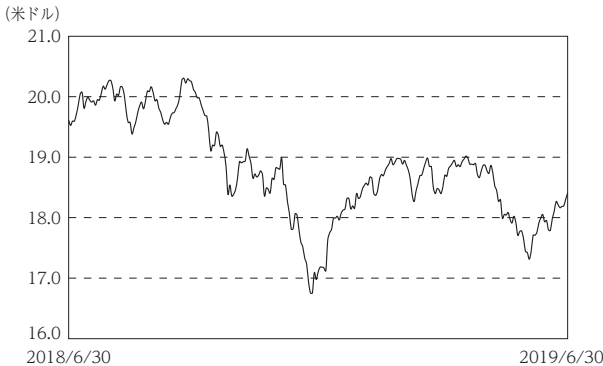


(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2019年8月31日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グロース（ユーロ）・ファンド
 (2018年7月1日～2019年6月30日)

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とする Class I (Ydis) USD の分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2018年7月1日～2019年6月30日)

運用報酬	0.70%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.27%
合計	0.97%

(注) 当ファンドが投資対象とする Class I (Ydis) USD の数値です。
 (注) 1 万口当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

○上位 10 銘柄

(2019年6月30日現在)

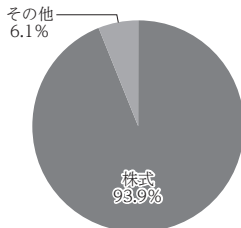
銘柄名	国名	業種	比率 %
Allergan PLC	米国	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.67
Kellogg Co.	米国	食品・飲料・タバコ	2.36
Citigroup Inc.	米国	銀行	2.36
Singapore Telecommunications Ltd.	シンガポール	電気通信サービス	2.32
Oracle Corp.	米国	ソフトウェア・サービス	2.30
Royal Dutch Shell PLC, B	英国	エネルギー	2.27
Samsung Electronics Co. Ltd.	韓国	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.18
BNP Paribas SA	フランス	銀行	2.15
BP PLC	英国	エネルギー	2.12
Roche Holding AG	スイス	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.08
組入銘柄数		78銘柄	

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

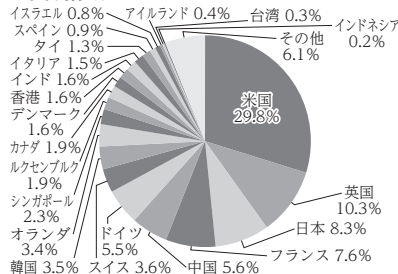
(注) 業種分類は、スタンダード&プアーズとMSCIが共同で開発した「世界産業分類基準 (GICS)」の24の産業グループを使用しております。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載しております。

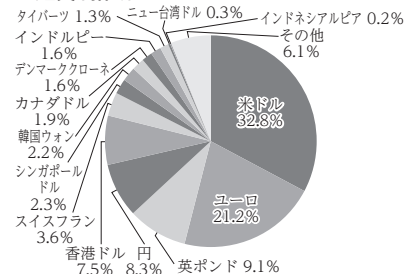
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



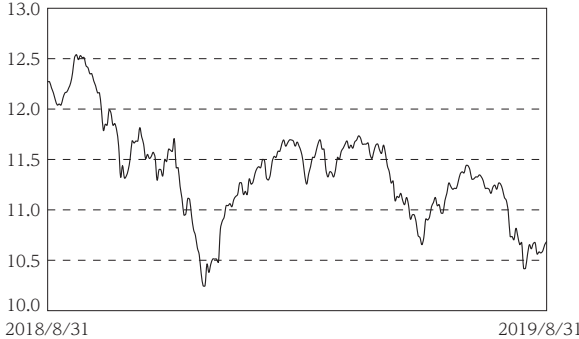
(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2019年6月30日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

テンプレートン・グロース・ファンドⅡ (2018年9月1日～2019年8月31日)

○基準価額の推移

(米ドル)



(注) 分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2018年9月1日～2019年8月31日)

運用報酬	0.63%
管理事務代行報酬、名義書換事務代行報酬、保管 銀行報酬、監査費用等	0.20%
合計	0.83%

(注) 1万口当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

○上位10銘柄

(2019年8月31日現在)

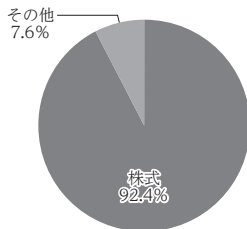
銘柄名	国名	業種	比率 %
Kellogg Co.	米国	食品・飲料・タバコ	3.04
Allergan PLC	米国	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.68
Singapore Telecommunications Ltd.	シンガポール	電気通信サービス	2.59
Gilead Sciences Inc.	米国	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.48
Roche Holding AG	スイス	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.47
Walgreens Boots Alliance Inc.	米国	食品・生活必需品小売り	2.30
Wheaton Precious Metals Corp.	カナダ	素材	2.28
BNP Paribas SA	フランス	銀行	2.17
SES SA, IDR	ルクセンブルク	メディア・娯楽	2.13
Bayer AG	ドイツ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.11
組入銘柄数		73銘柄	

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

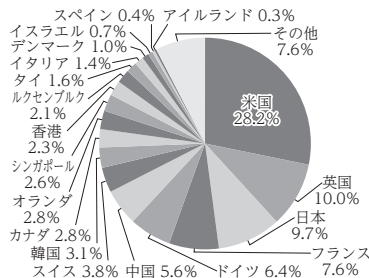
(注) 業種分類は、スタンダード&プアーズとMSCIが共同で開発した「世界産業分類基準 (GICS)」の24の産業グループを使用しております。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載しております。

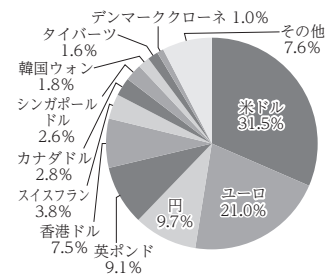
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2019年8月31日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

<代表的な資産クラスの指数の著作権等について>

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) は、株式会社東京証券取引所 (株東京証券取引所) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数 (TOPIX) の商標又は標章に関するすべての権利は(株東京証券取引所)が有しています。なお、本商品は、(株東京証券取引所)により提供、保証又は販売されるものではなく、(株東京証券取引所)は、本商品の発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

○MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)、MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI 国債を用いて行われるフランクリン・テンプルトン・インベストメンツ株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

○FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

J.P. Morgan Securities LLCが公表しているインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属しています。



FRANKLIN TEMPLETON

フランクリン・テンプレトンは、創業以来
ベンジャミン・フランクリンの肖像画をロゴマークとしております。
創業者ルーパート・H・ジョンソン Sr. は、
“With money and financial planning, prudence comes first.”
(お金を増やそうとするときに一番大切なのは、用心深さである。)
というベンジャミン・フランクリンのビジネス哲学に深く感銘し、
アメリカ建国の父でもあり、偉大な科学者、
そして優れた投資家でもあった彼の名を社名に冠しました。
ベンジャミン・フランクリンの肖像画を用いたロゴマークは、
ご投資家の皆様にとって、
フランクリン・テンプレトンの資産運用サービスに対する
信頼と安心の象徴となっております。